

米を育てるということ —環境にやさしい米づくり—

北風 八紘

聞き手・表ありさ 小杉真美（石川県立飯田高等学校1年）

自己紹介

私は北風八紘といいます。昭和18年3月10日。若山町出田生まれ。家族は夫婦2人だけ。子供は男と女と1人ずついるんですけど、息子は今、金沢で働いてて46くらいかな。帰ってくることはほとんどない。娘は大阪の方で。これも帰ってくる気がない。

私が農業を始めたのは18歳後半です。高校卒業して2年ほど京都で丁稚奉公してて、親が体壊して都合が悪くなったので。私三男坊なんですけど、長男と次男はどっちも公務員だったので帰ってこれなかった。だから丁稚奉公してた私が帰ってこれたので、それからずっとです。

米作りの工程

米作りはまず苗作りからです。昔は苗作るのは田んぼやっ

たけど今はハウスの中で育てています。種蒔きの準備はもう2月から始まる。種もみを用意したり、箱を準備したり、入れる土準備したりしながらやって、3月ぐらいいまでに準備終わって、種蒔きするのは3月の終わり頃から始まって4月いっぱいくらいまで。

30cm、60cmくらい箱に種もみを種蒔きします。その種もみは水の中につけて水分を吸わせるっていうのと、その間にカチカチに乾いているやつを水に戻して芽が出やすくするっていう。1か月くらい水や池に入れたりしておいとく。で、十分吸ったところで温度をちょっとかけてやると、もみに芽がちょっと出てくる。肩をきるっていうけどね。ぽっとふくれるげんてね。そこまでは3月の終わり頃まで。

それから苗箱を用意して土入れて、自動で種蒔く機械があつて種を蒔く。小さい面積やったらだいたい半日で終わる。1haぐらいいなら3日で終わるかな。2haあつても2日もあれば終わってしまうくらい。すえひろ（有機肥料で栽培するブランド米「すえひろ舞」）は70ha～80haあるので

種蒔きでひと月ほどかかる。いっぺんに田植えできないので
ずらして種蒔きする。1箱に120～150gほど。

それが終わって土入れて種蒔いて、その上に土をもう1回
薄くかぶせる。で、水を充分やって、催芽といって温度を
かけてやるげんて。で、普通ほっとくと1週間か2週間も
かけて芽を出すんですけど、1週間も2週間も待つとられ
ないのでちょっと温度をかけてやる。だいたい40度ぐら
いかな。3月は寒いさかいね、8月上旬頃の温度くら
いまで加温してやって。

だいたい3日ぐらいで芽がでて芽がそろうので、今
度はそれをビニールハウスの中へやる。ばあーと並べる。
その上に銀色のビニールの遮光フィルムをかける。それ
かけんかったら太陽に負けて真っ白になるげんて。そ
うさせないように、緑化させるためっていうか、ちょ
っと暗めにするのにシルバーのシートかけて置いとく。
ほれも3日くらい置いとくと、芽出たところが黄色い
です。卵色っていうかな。3日もそうしてやるときれ
いなグリーン色になる。それでシートとって、それから
水やり。毎日ではないですけど乾きぐあいをみて、水
がきれたなって頃に水をやって、それを20日くらい。
田植えができるような7cmか12cmぐらいの稲に
なる。それを機械で田植える。

田植えが終わったら、あとは田んぼの管理やね。草
やったり、虫やったり。病気をかからないようにする。
健康な稲を育てる手立てをしながらやるんですけど、
それでも虫がきたりすると、防除、消毒、化学薬品
でやったり、天然のものを使ったりしながらやって
るんです。一番あるのはイモチ病という病気。それ
が来たときにみてやる。だいたい最低1回ぐら
いやります。菌と虫とに効くやつで。

穂が出て育って、8月くらいから実が生える時期。
まだ倒れてるの少ないですけど、風が来ると、実が
入って重くなるので。台風なんか来ると倒れやす
くなる。早稲は大体8月の終わり頃に刈れるよ
うになる。中稲は9月の10日くらい、晩稲は
9月の終わりくらい。早稲・中稲・晩稲って
いうのは、早い品種・真ん中の品種・遅い品種
です。いっぺんに刈るのは大変なんで、早い
のと、真ん中と、遅いのと別々に植えて
やる。

刈って残った藁は土壌へ還元。前はほとんど
刈って、ハザで干してたけど、今は藁、その
まま残しとして、来年の肥料の足しにして
土壌改良にする。

機械化する米作り

基本的には、変わってない。土を耕して均して
田植えして、ほとんど変わってないけど、最初
に人間が全部やっていたものに次に牛が加わ
って、牛さんが人間の手伝いをするがんにな
って、んで、牛の代わりに機械が入ってき

て。牛から機械に変わった。初めは小さい機
械だったのにだんだんおっきくなってきた。

種蒔きについては昔は田んぼの中で稲育て
たんやけど、種蒔きは田んぼの中で苗育て、
それから、田んぼから箱に変わった。箱に代
わると同時に、なんで箱に変わったかちゅー
と、田植えが機械に変わったから。機械で
やる時は田んぼから持ってきたやつじゃ
ダメなので、機械で植えられるような
植え方にした。基本的に、やり方はちょ
っとずつ変わってきとるけど、基本的な
ことは全然変わってない。耕して、均
らして、田植えしてってのは全然変わ
ってない。人間から牛、牛から機械に
代わって。ハザの代わりに乾燥機が
入ってきて、ってどんどん変わって
くけど。

NPO

山でもない里でもない、その真ん中、
中山間地域ってゆうんですけど、その
中山間地をいかに活かすかってゆう
石川県で考えた中山間地域対策促進協
議会てのがあって。金沢大学の先生と
知り合って、金沢大学の駐村研究員
制度というのを作り始めて、それが
今の能登半島里山里海自然学校（金
沢大学能登学舎）になるんですけど。
金沢大学ってのは農業部門を持つと
らんげんと。農学部がないんです。金
沢大学はその地域の活性化を図るた
めの地域貢献活動に取り組んでいて、
地域のことを活性化するなどの勉強
会をしようとなった。

自然学校を作ったのは金沢大学なん
で、いつ帰って行くかわかんないし、
金沢大学が永久的にやるとは言って
ないので、2年か3年やろな。ある
程度どっかの文部科学省とか環境省
とか、ある程度の事業の予算もら
ってやる仕事なので、予算がきれる
とポンッと帰りんよ。最初からそう
いうことになりやすよと聞いてたし。
おらんくなってしまっ、せっかく
そろったもんもなくなってしまうの
は……ってことで作ったのがNPO
なんです。

NPOは主に里山の保全管理、維持
管理の勉強と実施すること。やっ
とる場所は小っちゃいけど、山で
いうと3haを今、保全管理して
いる。

水回りの大変さ

田んぼへの水を引いてくる場所は
それぞれ違いてね。川から引いて
くるのもあるし、池からのもある
し。その池も4つ山やったり川や
ったりいっぱいあるし。水の管理
が一番、1人ついても間に合わん
くらい。時期になると、2人でも
10日かかるくらい。

今はね、地区によってパイプライン
ってのがあります。ポンプで水を
送るやつ。田んぼでひねると水が
ジャーっと出



機械を使って田植えをしている様子

てくる。今はそういう風になってきたのでまだ楽だ。でも、パイプラインがあってもまだ大変。あっちこっちU字溝から水を引っぱってる方が多い。

春先にはU字溝の整備をします。溝掃除やったり草刈したりいろいろ。土がたまれば土を上げてやらなんし、それを管理する仕事もたくさんあって大変です。今まではU字溝の掃除とか農道の整備とかは集落でやってきました。本来は農業者だけでやらなきゃいけないけど、農業者だけでは管理しづらくなった。だから、集落のみんなで仕事しましょうということでした。

ところが今は集落で管理するとしても人数が少なくて大変。だから今は国が手伝ってくれます。多面的機能支払って言うんですけど、農村環境を守る事業に対して国から補助がでてる。その制度を利用すると管理については困らなくなった。

直に蒔く

田植えってもともと苗にしてから植えるって話をしたんですけど。直播は田んぼに直接種を蒔くってゆうやり方をし

ていて、機械で蒔くんです。モミ入れるタンクがあって、円盤がついてそれで溝を切りながら、溝を切った跡へ、ちゃんと落としてくそういう機械。前は手で蒔いたり、お父さんが担いでるような消毒するやつで適当に蒔いたり、ラジコンヘリコプターで散播したりってことをしてたんです。

直播を通じての生物の多様性

中干って作業をするのでね。機械がはまったりするので、乾かさなきゃいけない。んで、田んぼの水を切って乾かす作業をするのね。田んぼから水を全部落としてしまうので、田んぼ全体に水がなくなる。カエルとかもそうですし小さい虫なんかでも、水の中に住むやつは住めなくなるよね。それが直播をすることによって、水を張る時期がずれるんですよ。だから、手で植えたときの水を中干にかかってなくなる頃に、ちょうど直播のところが湛水状態になる。ですから、田んぼのあちこちに水が残るんだよね。なので、乾いたところから虫類はそっちへ移る。

今までやったら生物は6月の終わりころに水ぱっとなくなるので、行くところなくてどっかに移ってかなきゃいけない

なる。今はそうじゃなくて1か所は枯れても、もう1か所残ってるので。今までは成虫になる前に、これから飛ぼうとかなんとかしようかなと思うた時に、水がなくなるので育たなかった。でも、今はそうじゃなくてちょっと横を飛んでけば水があるので移動しながらだから育っている。なのでそういう意味で生物の多様性に役立っていると思います。

米の品種

一番多いのはコシヒカリですね。それから早稲品種でいえばノトヒカリ、それからユメミズホが増えてきてるね。それが早稲品種で。あとは餅とか、まだもっとありますけど、まあほとんどコシヒカリ。コシヒカリを直播するとちょうど、刈り取るのが11月前になってしまうがやて。そこまでいくと雪が落ちてきたりする時期になるので、そこまでは引っ張れないので、コシヒカリをちょっとだけ遅くする意味もあって直播をやってる。そうすると11月入る前に刈れる。大まかに言えば、ノトヒカリとユメミズホとコシヒカリとモチです。直播の米もほとんど変わらない。

強い稲

(有)すえひろが平成7年にできたんですけど、それから減農薬減化学肥料にはこだわって、一般的にいうと普通の農薬の半分くらい。中にはほとんど使ってないのもあります。稲自身に抵抗がつく。可愛い可愛い育てるとすぐ病気になる。丈夫に育てると病気にもかかりにくいし、怪我もしくいってのが稲も一緒。稲もそんながして、丈夫に育てると割と虫にも強いし病気にも強くなる。当然丈夫になるのでストレスも減るし。病気になってから治療するって形。あとは病気が来ないように先に予防したりするね。今はそうじゃなくて、予防じゃなくて防除になりつつある。一般的にはそこまでいってないですけど。土をきっちり作ってやると、土さえしっかりすれば、育つもんがきちっとしてくる。

農業と環境への配慮

減化学肥料、減農薬、除草剤はあんまり使わないあぜの管理の仕方だとか。まあ、使うことは使うんですけど、虫に優しい。虫に優しくしたらあんまり良くないんですけど(笑)。でも、除草剤は使わずにほとんど手で刈ってます。あと直播もそう。意図してやってるわけじゃないですけど結果的にそうなった。意図してやってるわけじゃないけど自然的にそうなる。

一番は農薬をあまり使わないってこと。今の農薬ってのは危険じゃないですよ。昔は1つ使うといろんな虫が死んだ

んですよ。だから益虫も害虫もない。まいただけで虫が全部死んだ。今はそうじゃなくて農薬をまくとカメムシ類にしか効かないような農薬の作り方をしてる。もうひとつはね、安全期間てがある。農薬をまいてから1週間ぐらいしか効かん、1週間経ってしまうと無毒化してしまうような化学薬品の作り方をしてます。

山や松林にヘリ防除やってたんだけど。6月ごろかな。ヘリ防除もそうなんですけど前はね、1回蒔くともう1カ月ぐらい残効だったんですけど、今は3日。だから蒔いたら3日しか効かん。前はヘリ飛んだら1ヶ月くらい山入るなってゆうたんですけど、今は飛んで帰ってたなあと思っただろう入っても大丈夫なくらい。農薬に違いはないんですけど安全性がよくなってきたのは事実。ですけれどもなるべく使わないようにする。あと農薬を使わない理由はもう1つある。高いんですよ、やっぱり(笑)。使わないようにすることは経費の節減にもなる。

だから環境に配慮するってことは大事なんけど、実際は環境に配慮しようと思わんと経費節減しようと思っただけ環境に配慮してたってことも逆に言うとも言えることもある。必ず環境やなんかに影響しとる。だってあぜ草刈り、こんな草でやるとる本人は環境に優しいてさかい草刈りしとるわけじゃないでしょ。でも実際にやとることにはそれすることによって環境に優しい農業になってくって話。だから真面目に農業してると環境に優しい農業をしてることになると思う。

ラジコンヘリコプターでやることになったのも環境に配慮にはものすごくいいですよ。今までみんな、朝から起きて3日も4日も1週間もかかってみんな農薬まいてたでしょ。したら、消毒自体がばらばらだったので、飛砂も多かったよね。粉剤なんか100mも200mも流れてったり。そんなあんまり良い環境じゃなかった。でもヘリでやるようになってからまいたところ以外にまで農薬がいくことでの抑える効果はあるし、ヘリコプター入れることによっても環境に配慮した農業だと思ってる。ほれだけ意識してないけどそういうふうに変ってきてるのも農業だと思ってるね。

日本一のもの

なんせね、収穫てが楽しいげわ。自分で作ったものを取り上げるって、ほれが一番楽しみ。おいしいとかまずいとかは後の話。とにかく初めて稲刈りしてできた米みるってほんつとに楽しい。嬉しいよ。そのために百姓やってるようなもん。面積が多くても少なくともたぶん一緒だと思う。百姓てが特にそうなんですけど、収穫した時の喜びがまずある。苦労は忘れるやろうね、たぶん。何やってても。そうして結果的においしいって自分で食べて、ああそうか、あ

れがこうなったんだって、いちいち思い当たるのが楽しいってかね、嬉しいかな。やっぱり日本にね、日本一てがいくつあるて知つとる？ これ数えたら米だけでもすごいくらい。だからみんな自分で作ったもんが日本一やと思っとりんて。まあそれがこだわりねんけどな、ひとつの。日本一やて言えばあそこにもあったでっていう話になりんけどな。やっぱり収穫したときの喜びってそれだけだと思っうね。農家はみんなそうだと思うよ。一番最初にリンゴをこう、ばつとつたその嬉しさっていうには。あとはもう2つ目くらいからはば一つといくかもしれないけど。でも、1個をとる嬉しさがたぶんないと思う。収穫した時てがほれが楽しみ。

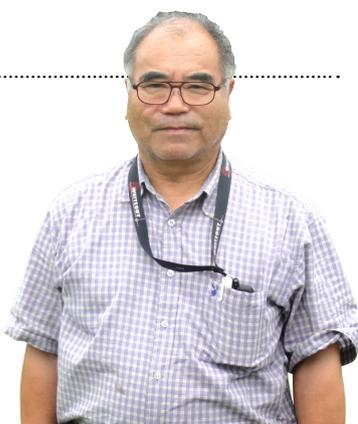
[取材日：2014年8月11日・11月27日]

PROFILE

北風 八紘 きたかぜ はっこう

昭和18年3月10日・71歳
農業

珠洲市若山町生まれ。平成7年にできた(有)すえひろで、減農薬減化学肥料にこだわった米作りしている。今はNPOに入っており、里山の保全管理、維持管理に努めている。国の力を借りて集落全体で協力して農業をしている。



● 取材を終えての感想 ●

今回初めて「聞き書き」をしました。北風さんにうまくインタビューできるか、ちゃんとそれをまとめられるか、不安がたくさんありました。でも、北風さんがとても気さくな方でいろいろな話をしてくださったので、なんとか完成させることができました。取材していくなかで、北風さんの米作りへの思いや里山を守ることへの思いがすごく伝わってきました。その伝わってきたことを忘れないようにしようと思います。

聞き書きをして初めて自分の町のことだったり、文章をまとめる大変さだったり、いろいろなことを学びました。こういう経験は何度もできるものではないと思うので、今回の聞き書きを無駄なものにしないように、今後活かしていきたいです。(小杉真美 写真：右)

初めての聞き書きで大変だったのは、書き起こしです。タイピングも得意ではなく、1分という長さでもすごく時間がかかりました。でも、北風さんが細かく話してくれたことを正確に書き起こそうと頑張りました。その書き起こした文章を本誌に載せる用の文章にまとめる作業も大変でした。でも、北風さんが話してくださった文章を自分で理解しながらまとめていくので、より理解が深まりとてもおもしろかったです。

インタビューの時に聞いただけだと、たくさん話してくださったので頭に残るのも半分くらいだったと思います。でも、インタビューしたのを聞き返し、書き起こし、何度も読み返しながらか、まとめることによって話してくださったことが頭に残りました。インタビューの時には感じれなかった自分の意見や感想が、まとめ終わってから自分の意見が持てるようになりました。

すごく地道で大変な作業でしたが、インタビューする力や文章をまとめる力、地域のことなどいろんなことが自分の物になりました。私たちの我儘にも笑顔で答えてくださった北風さん、本当にありがとうございました。(表ありさ 写真：左)

